

製品名: ABL2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80800**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	128kDa

抗原情報

遺伝子名	ABL2
別名	ARG; ABLL; FLJ22224; FLJ31718; FLJ41441
遺伝子 ID	27.0
SwissProt ID	P42684
免疫原	大腸菌で発現した ABL2 の精製された組み換え断片。

背景

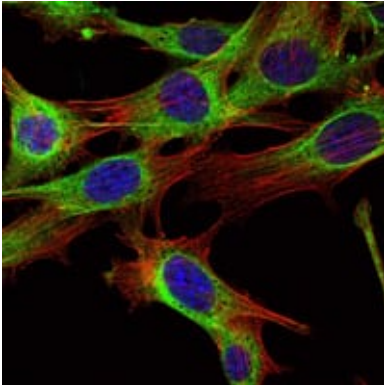
ABL2 (ARG、Abl 関連遺伝子) は、c-Abl とともに、哺乳類非受容体チロシンキナーゼの Abl ファミリーを形成します。ABL2 と c-Abl は、SH3、SH2、およびチロシンドメインにおいてそれぞれ 89%、90%、93%の相同性を有しますが、カルボキシ末端側半分の

相同性はわずか 29%です。ヒト c-Abl および ABL2 遺伝子は、ヒトにおいて普遍的に発現しています。ABL2 は主に細胞質に検出されたのに対し、c-Abl は細胞質と核の両方に局在します。c-Abl は、ヒト白血病に存在する 2 つの異なる染色体転座に関与しており、Bcr-Abl および TEL-Abl が生成されます。最近、急性骨髄性白血病 (AML) において TEL-ARG 融合転写産物も同定されました。Abl ファミリーキナーゼは受容体チロシンシグナル伝達経路と相互作用し、細胞周期の進行、遺伝子転写、ニューロン内のアクチン細胞骨格の組織化などの細胞機能を制御する可能性もあります。

研究分野

-

画像データ



ABL2 マウス mAb (緑) を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。